

馬威し—武士と庶民の正月行事—

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 平成26年1月5日(日)～
3月16日(日)
- 休館日 1月20日・1月21日・2月3日
2月4日・2月17日・2月18日

今年の干支の午に合わせる、福井城下で盛大に催されていた正月行事「馬威し」について紹介するテーマ展を開催いたしました。展示中の絵巻や屏風、記録類などを通して、当時の様子を知り、その賑わいを想像していただければと思います。

I 武士と庶民が攻防を繰り広げた「馬威し」

旧暦の正月十四日に福井城下で催された「馬威し」は、乗馬して進む福井藩の武士たちの行く手を、庶民たちが様々な方法で妨害したもので、福井城の桜門内や城外の本町通りなどでは両者の激しい攻防が見られました。正月の左義長神事とも関連していたことから「左義長馬威し」とも呼ばれています。

武士にとって馬威しは馬術や軍事の訓練になりましたが、庶民との融和を図る目的もあったとされています。馬威しは大変有名であったようで、幕末の水戸藩主徳川斉昭も福井藩主松平慶永（春嶽）に対して、武道修練のために馬威しを盛んにすることを奨励しています。

江戸時代の馬威しの模様を描いた優れた作品に「爆竹調馬之図会」があります。この絵巻には、福井城桜門を出て本町通りを九十九橋北詰へ向かう乗馬の武士たちとそれを威す庶民たちの姿、さらに店の中に充満する見物人たちが見事に活写されています。

藩政時代に人気のあった馬威しは、明治4年（1871）の廃藩置県以降も催されていましたが、明治の半ばには廃れてしまい、今は実際の様子を見ることができません。



爆竹調馬之図会

越葵文庫

II 馬威し図屏風の絵師—菱川師福—

菱川師福（1845～1941）は福井市出身の日本画家で、風俗画を得意としました。本名は西尾儀平といい、生家は福井城下の上三ツ橋町（現・福井市照手）で質屋を営んでいました。橘曙覧の墓屋が近所であり、曙覧から手習いをうけたといわれます。父を早くに亡くし、独学で学んだ絵の仕事で家計を助けていました。10代の頃、福井で活動していた絵師・早瀬来山（1808～90）に絵を学び、「青峰」の画号を贈られました。特に風俗人物画を得意とし、「菱川師福」という画号も明治32年（1899）、当時の福井県知事関新吾より「福井の菱川師宣（17世紀に活躍した浮世絵師）だ」として贈られたものです。

師福は馬威しを題材にした作品を数点描いています。廃藩置県時に師福は26歳でした。今回ご紹介する2点の馬威し図屏風はともに晩年の作品で、実際に馬威しを見ていた師福の懐かしい記憶が描かれています。



(左隻)

馬威図屏風 菱川師福記念文庫



(右隻)

「馬威し」 展示資料目録

I 武士と庶民が攻防を繰り広げた「馬威し」

No.	資料名	員数	所蔵
1	徳川齊昭回答書	1巻	福井市春嶽公記念文庫
2	福井藩十二か月年中行事絵巻	1巻	福井市春嶽公記念文庫
3	福井温故帳	1冊	越葵文庫
4	爆竹調馬之図絵	1巻	越葵文庫
5	越前国古今名蹟考 五	1冊	当館蔵
6	越藩史略 十三	1冊	当館蔵
7	続片聳記 四	1冊	当館蔵
8	家譜 百八十四	1冊	越葵文庫
9	慎独斎雑録	1冊	福井市春嶽公記念文庫
10	山口家譜 二	1冊	当館蔵
11	左義長馬おどし名前	1綴	福井市春嶽公記念文庫

II 馬威図屏風の絵師 - 菱川師福 -

No.	資料名	員数	所蔵
12	馬威図屏風 菱川師福筆	6曲1双	菱川師福翁記念文庫
13	馬威図屏風下絵 菱川師福筆	6曲1隻	当館蔵
14	春駒図 菱川師福筆	1幅	菱川師福翁記念文庫
15	正月図下絵 (12ヶ月風俗図のうち) 菱川師福筆	1幅	菱川師福翁記念文庫

次回の展示 企画展示室・松平家史料展示室・館蔵品ギャラリー

移転オープン10周年記念 春季特別展

「合戦 - 生き残れ! 未来のために -」

期間 平成26年3月21日～5月6日

休館日 4月14日

松平家史料展示室 展示解説シートNo.80
平成26年1月5日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3-12-1
電話(0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
担当 印牧信明 藤原千穂

印刷 白崎印刷